

	課題分析	授業改善策
1年	- 自分の思いや考えを伝えたい気持ちはあるが、詳しく話したり、分かりやすく相手に伝えたりすることが苦手な児童が多い。 - 相手の話に関心をもち、最後まで聞いたり、感想や質問を返したりすることが苦手である。	- 単元の言葉、「言葉の宝箱」の活用や言葉遊び、本の読み聞かせを通して、使える言葉の語彙を増やす。 - 発表やスピーチでは、時間的・事柄の順序や基本的な構成を知り、基本的な話型を体験的活動を通して身に付けさせる。相手の話を聞き、質問し確かめ、共感し、感想を言うといった場面を意図的に設ける。
2年	- 語彙の量が少なかったり、言葉の意味理解が不十分だったりして、漢字や言葉を文章や話し言葉の中で、十分に活用できていない児童が多い。 - 話し合い活動では、形式上は話しているが、相手の伝えたいことや自分が聞きたいことなどを意識し、話し合いから考えを広げたり深めたりすることが苦手である。	- 朝の時間、授業の冒頭や終わりなど、短時間でも言葉の学習を意図的に設定する。音読練習やMIMの学習、読書の時間を確保し、言葉に触れる機会を増やす。 「話す・聞く」場面では、話型や聞く視点を提示して経験を積み重ねる。相手の話を受け止める聞き方を常時意識させ、質問をしたり、感想を言ったりできるようにする。 - 交流の場面では、モデル動画を活用して活動の見通しをもたせることで、ねらいに沿った学習活動ができるようにする。
3年	- 漢字の習熟が不十分で活用に至らなかったり、言葉のまとまりに気を付けて音読したりすることが苦手な児童がいる。 - 互いの意見を出し、話し合うことができるが、出された意見について、質問をしたり、考えを足したりして、考えを広げることが難しい。	- モジュールの時間等を活用し、漢字学習を行い、定期的に習熟度を図るようにする。また、音読をしたり、読書の時間を確保したりすることで、言葉に触れる機会を増やす。 - 基本的な話型（モデル動画等の活用）を学び、聞く視点・交流の目的を明確にすることで、考えを広げることができるようにする。
4年	- 話し合いの場で、積極的に自分の考えを話せる児童とそうでない児童の差が大きい。 - 段落相互の関係など、構成を意識した文章を書くことが苦手な児童がいる。	- ワークシートやタブレット端末を活用し、自分の考えをもたせた後、児童同士が課題について交流する時間と場を十分に設定する。語句を反復練習したり「言葉の宝箱」を活用したりすることにより、語彙を増やす。 - モデル文を示したり、構成メモを書いたりするなど、見通しをもって文章を書く取組をする。
5年	- 事実と感想、自分の意見を区別して話の内容が明確になるように構成することが苦手な児童が多い。 - 自分の思いや考えを語と語、文と文のつながりに注意し、適切な表現を用いて文章に書くことが苦手な児童が多い。 - 既習の漢字や新出漢字を文や文章の中で適切に使うことが苦手な児童が多い。	- 話し合いや意見を交流する学習では、尋ねたり、応答したりしながら、知らせたいことを明確にして話すようにする。 - 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えさせるとともに、文章を読み返して、間違いなどに気付かせ、正すように指導する。 - 漢字の学習では読みを全体で確認するとともに、ノート of 漢字練習や小テストの直しを丁寧にかける。
6年	- 目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが相手に分かりやすく伝わるよう書くことが難しい児童がいる。 - 話し合いの場で、ノートやタブレット端末にまとめた自分の考えを、相手に伝わるように話すことが難しい児童がいる。	- 文章を構造化して考えられるように、図を使って考えを整理したり広げたりする機会を増やす。書き方をタブレット端末に保存しておき、いつでも確認できるようにする。 - 模範となる話し方を示す。交流活動をした後に振り返りを行い、友達のよい点を参考にしたり自己の改善点に気付かせたりする。

専 科	【音楽】 ・音楽表現に必要な基本的な知識・技能の定着に差がある。 【図工】 ・用具の使い方に慣れたり、活動しながら発想を広げたりすることに課題がある。	【音楽】 ・読譜力向上に向けて、リコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏する前に、楽譜に階名を記入する活動を取り入れる。 ・児童同士で教え合う活動を適宜取り入れて、学びや人間関係を深め、友達と一緒に学ぶ楽しさを味わえるようにする。 【図工】 ・安全で適切な用具の使い方をキーワードや机間指導で伝えていく。 ・導入で用具の使い方や発想を広げる方法を伝えたり、声かけ、助言を増やしたりして発想を促す。
--------	---	--